

血液透析患者における DPP-4 阻害剤と従来型インスリン分泌促進薬 の比較

医療法人衆和会 長崎腎クリニック、長崎腎病院
○橋口純一郎、宮崎健一、李 嘉明、原田孝司、船越 哲

【目的】

DPP-4 阻害剤の腎外作用は不明な点が多く、従来型インスリン分泌促進薬との違いを検討する。

【方法】

対象は従来型の経口インスリン分泌促進薬から DPP-4 阻害剤（ビルダグリプチン）に変更した血液透析患者 15 名。評価項目は HbA1C、Hb（EPO 投与量）、Ca、P、K、T-C、TG、AMY、 γ GT、PTH、nPCR、ドライウェイト、心胸比の 13 項目。観察期間は 3 か月。

【結果】

15 名中 EPO 増量 2 名、不変 9 名、減量 4 名と 87% が EPO 増量なしにもかかわらず、Hb 値は 10.8 ± 1.49 から 11.6 ± 1.08 と有意に上昇した ($P < 0.05$)。その他の項目は有意な変化は無かった。

【考察】

DPP-4 阻害薬はインクレチン以外のケモカインを介した様々な作用が予想されている。nPCR は変化がなかったため、いずれかのケモカインを介して直接腎性貧血の改善につながっているのかもしれない。

【結論】

DPP-4 阻害剤は、従来型インスリン分泌促進薬と比較して概ね臨床的な違いはないが、腎性貧血を改善する可能性がある。